

日本の将来を語る

学校裁量を生かした学校経営を期待



一般社団法人社会応援ネットワーク代表理事

高比良 美穂

たかひら みほ

朝日新聞社でメディアプロデューサー、若者向け新聞[SEVEN]の編集長などを経て2002年に独立。「子ども応援便り」[かっこう応援便り]などの編集長を歴任し、11年、東日本大震災の被災地の学校からの要望で避難所にメッセージ号外を配布したことをきっかけに団体を設立。2020年、コロナ禍での悩みに応えるためのサイト「こころの健康サポート部」を立ち上げる。主な著書に「図解でわかる 14歳からの自然災害と防災」、「図解でわかる 14歳からのストレスと心のケア」(太田出版)など。



子どもファースト、現場ファーストで

「社会応援ネットワーク」は、2011年3月の東日本大震災の直後に設立されました。社会的に弱い立場にいる人々を応援し、少しでも社会により良い変化をもたせたら、と子どもたちの心のケアに関する媒体や映像の制作、学校への出前授業や教職員向けの研修会などを開催してきました。

「子どもファースト」、「現場ファースト」を掲げ、当事者からのリクエストを最優先に、メッセージの発信や媒体づくりを進めています。例えば、特別支援学校の保護者からの「障害のある子どもたちに対応した防災学習の教材がない」という声にこたえて、一般企業や教職員共済などの団体から協賛をいただいで発行した「防災教育実践事例集 特別支援学校編」もその一つです。

ここ数年、新型コロナウイルス感染症や頻発する自然災害などの影響で社会全体にストレス要因が増えています。その影響は弱い立場にいる子どもたち及び、「子ども」のイライラがとまらない、「部活の大会がなくなりすっきり意欲をなくしている」などの悩みが、当団体に続々と寄せられました。そこで、「こころの健康サ

「多様性」がキーワードに

日本の将来を考える際に、キーワードになってくるのが「多様性」です。日本社会でも暮らし方、働き方などさまざまな側面で多様性が急速に進んでいます。学校文化は相対的に多様化が遅れている分野だと言えるでしょう。学校が多様であるためには、その根幹に「学校裁量」が有効に機能していることが必要です。

ところが、学校には「標準性への呪縛」があるように感じるので。例えば授業時間などの規定は「標準」とされているにも関わらず、それが絶対的なルールかのようになってしまうところが見受けられます。あくまでも「子どもファースト」に考えた時、その標準をどう生かすかを柔軟に考え直してみてもいいでしょう。今のルールの中でも、例えば、小学校で一時間の単位時間を45分ではなく、40分にすることは可能です。実際に横浜市の小中学校では、午前中に40分の授業を5コマ集中して実施し、下校時刻を早める取り組みもなされています。そうした判断は校長の「裁量」としてできることです。もちろん責任も伴いますが、自信を持って今ある裁量権を生かしていくことが改革への第一歩になると思います。

先述した「Why」(何のために)を明確にし

ポート部」というサイトを立ち上げました(<https://kokoro-support.info/>)。サイト上では、子ども向けにマンガを使った短い動画もアップしています。新型コロナウイルスについて説明した動画や、ストレス対処の方法として「10秒呼吸法」を紹介した動画は、すでに多くの学校で授業などに活用していただいているようで、授業実践の報告もたくさん届いています。この動画で学んだ子どもたちが、家族や自分の友だちにも教えることで、心のケアの輪が広がると願っています。

校長先生には自信を持ってほしい

さまざまな学校現場におうかがいする機会がありますが、ここ数年、「学校における働き方改革」への対応や感染症対策をしながらの学校運営など、校長先生は非常に苦労されています。お立場上、悩みを相談できずに一人で抱え込んでしまいう傾向にもあるようです。子どもたちのケアと同様に、管理職の先生方へのサポートも大切になっていと感じています。

学校教育は現在、大きな変革の波の中にあり、批判にさらされることも多いでしょう。でも、戦後、日本の学校は社会のセーフティネットとして大きな役割を果たしてきました。そうした日本の学校文化は、海外の国々から改めて高く

て、その目的を果たすために「標準」とされている中の自由になる部分を組み合わせ、学校の裁量権を実体化していくだけでも、教育や学校の多様化は少し進むのではないのでしょうか。コロナ禍のもとで、学校行事の見直しがされている今が、学校の裁量権を生かすチャンスだとも言えます。

市区町村の校長会の「出番」

ただし、一校の校長の判断では、なかなか実行が難しい事情もあるでしょう。そこで期待したいのが、市区町村の校長会の動きです。

学校現場を取材していると、「あの地域の学校だからできること」、「あの目立つ校長がいるからできること」と、特定の学校が特別視されていることがよくあります。地域や学校によって保護者の意識などに違いがあるのは事実ですが、だからこそ地区の校長会が、「学校の裁量を生かす」という点で団結し、行政に要望することのできるような気がします。また、校長会が時代に合った「学校の裁量」を推奨していく方針を明確に示せば、現場の教職員もアイデアや意見を出しやすくなります。

私たちの団体も、微力ながら多様な学校づくりに挑戦するみなさん方のお役に立てるよう、情報発信を続けていきます。